

展させてゆくこと等、自由遊びに關聯して保育者の誘導の力に俟つ部分が多いためである。そしてまたこの誘導によつて保育各項目を幼児の遊びの生活と極めて自然に且密接に結びつけ發展させることが出来るのである。例へば肩章や勳章をつくる手技が兵隊ごつこと結びついて幼児自身の興味を以て一層活潑に行はれることや、繩だけの電車ごつことが誘導によつて切符や信號旗がつくられ、さては驛々でおべんたうも賣り出されるといつた工合である。また就學の間近になつた幼児達の間で好んで遊ばれる學校ごつこでは適當な誘導によつて必要な學用品の製作は勿論、唱歌、遊戯、自由畫から幼児に好ましい諸種の躰までが、遊びの中に、一種のおこがれさへもつて、極めて興味深く、自然に行はれるのである。但し保育者の誘導によつて、始められた遊びに於ても、幼児の年齢、性情、能力、並びに時と場所等により適當な時に保育者は幼児に遊びの主役を讓つて幼児中心に遊びを展開させてゆくことが希ましいことは、自由遊びの場合と同様である。

自由遊びは幼児がその生活のあるがまゝ

の形に於て自發的に展開するのであつて、これに適切な指導、誘導を與へる事は以上述べた如く極めて重要な事ではあるが、かかる生活訓練の爲、躰の爲の遊びではないこと、各保育項目との密接な關係もごまでも自由遊びの誘導としてあつて、項目の内容そのものが主となるのではないことを保育者は心構への中に充分入れておかねばならない。元來が自由遊びである。ごまでも幼児の生活力そのもの、發揮である

防空訓練と幼児

空襲必至といはれてゐる今日では、幼児といへどもそれによる災害をまぬかれることは出来ないものである。隣組の月例防空訓練の如く、幼児もその集團する所に於ては、平素より度重ねて待避、避難等の訓練をなさなければならぬ。幼児の訓練は、要するに、待避等を敏速になす様にし、その間おどしたりして徒に幼児の恐怖心を起させる様なことなく「空襲物かは」の氣持を大人が

遊びが主であり、しかも遊びといふ極めて自然の形の中に於て必要適切な諸種の生活訓練、情操陶冶がなされ得るといふところに自由遊びの盡きざる妙味があるといへるのである。遊びの中の生活訓練、躰等々は保育者の心構へには明確に把握され、それが遊ぶ幼児へは、遊びを通して渾然と自然の形、融和した形に於て與へられる。かくて幼児は生活力を正しく、健やかに、樂しみつゝ存分に發揮するであらう。

關 登美子

常に持つてなすべきである。始めの中は、訓練日を決めて、毎月一回とか二回することにし、馴れて來たら不意にすることもよい。(東京都では毎月十九日が防空強化日であるから、附屬幼稚園では十九日に訓練を行ふ。)

防空服裝

近頃はよく路上でもモンペ姿の可愛い子供を多く見受ける様になつた。子供が先

生の手を借りないでも一人で着られて、その上實用的な防空服裝を揃へて置くことが、必要である。(防空服裝の詳細は幼児の教育昭和十八年十一月號參照のこと。)

防空服は常時防空帽子と共に肩からかけ、携帯させる。あの小さい子供にこれらの物を持たせることは、體力にたへ得るか、どうかの懸念もあるが、今の時局下に於て、かへつてお子さん自身の爲にも良いのでは無いかと思ふ。服裝は、帽子(綿入れ又は合せ)、防空服(上衣、下衣)、手袋で、その他常時携帯の袋には別に、手拭ひ、三角巾、マスク、マキキロ、靴下又は足袋等入れておくこと。そしてそれらのものには、すべて、住所、姓名、血液型などつけ、服裝入れ袋には、木札等で、表に幼児の住所、姓名、幼稚園名、年齢、血液型を書き、裏に縁者氏名を一、二名住所と共に書いておくことよ。

支度は平生より一人で手早く着られる様に練習しておくことが必要である。一人の保姆で大勢の子供の支度を一度にすることは、とても手が廻り切らないのであるから、一人で出来る様にして置く。園児に依つて

見ると始め着られなかつた者でも、四、五回の練習で殆ど皆、一人で出来る様になつた。すつかり支度の出来るのに早い者は、三〇秒位であつたが、敏速にすることが、第一である。

帽子などの紐の結べない者は、とりあへず両手でぬけない様におさへて待避させる。

防空動作

イ、合圖

幼児が遊んで居る中を、不意に前知らせ無し、警報をならす。笛、太鼓、又はその他の樂器に依つて合圖をする。幼児には前もつて平素より、「この音がなつたら警報です」と約束しておく。合圖に依つて幼児は何處にゐても、すぐ駆足で先生の所に行き、そして直に支度をする。それからの命令その他は、メガホンでする。空襲及び警戒警報の發令、解除、敵機來襲、退去、待避、避難等のよく使ふことばは、よく前以て理解させておくことが必要である。

ロ、待避、避難

幼児の集團する所では、是非とも其處の人数が入り切るだけの防空壕が必要であ

る。壕の大きさ等については新聞等にも出てるのであるが、深さ一米二〇位、長さ幅は、人数に依つて異なる。入口は二方から作り、すぼりの壕に簡単な屋根をつける。

そして不斷から誰は何處の壕に入るなどと決めておくことも、いざの時に混しないが良い。又室内では机の下、中廊下などに待避する。敵機來襲の時には、「伏せ」を行ふ。「伏せ」の命令で直に両手で目と耳をおさへて伏せることも、よく出来る様に、練習しておく。待避中は、靜肅に、次の命令をよく聞く様に、相當長時間でも、我慢して机の下、壕の中などに入つてゐられる様に養ふことが大切である。

次に狀勢によつて避難する場合、保姆のあとについて出来るだけ、早くする。女學校附設の戦時託兒所の如く、大人の手の多い所では、不斷から誰がどの子供を連れて避難するか、決めておくことよ。出来れば一人の保姆で三人の子供を連れて行く。一人を背負組にて背負ひ、他の二人を左右の手に一人づつ、つなぎ、行動を敏速にする(背負組は用意しておくこと)。その際、その他の子供は、子供同志手をつながせると、

一人が轉ぶと他まで轉ぶ様な事になるので銘々一人で跣足で先生のあとをなかけて来る様にする。そして一人で勝手な所へ行かず、先生又は大人と必ず一緒に避難する様に云つておく。皆一所にかたまらず壕又は植込みの中などに散らばつてゐることも場合に依つては良い。

ハ、態度

幼児には、先生のする通りに早くする様に云ひ聞かせ、少しの事で泣かないこと、先生のおつしやることを良く聞くこと等約束しておく。訓練中には、前にも述べた如く、空襲に對する恐怖心を起させる様なこと無く、保母は平靜に敏速に行動すべきである。

保育室には、救急袋、又は應急箱等(副木も)備へ、非常の際には、保母がそれを肩からかけて避難する。萬一にそなへて、幼児、保母の血液型など調べて、何處か部屋の目につき易い所に貼つておく。そして保母は應急處置が出来る様、救急知識を養つておくことも必要である。例へばどんな外傷にも驚くこと無く、處置出来る様、保母の平生の決意が大切である。

先日、防空訓練日の實習科生徒の日誌に、「子供が、練習の時の如く、さつさと着かへて、ついて来て呉れないとしたらどうしよう。私達は餘程しつかりしてゐなくてはいけない。命にかへても子供達を守つてやらなくてはならない。皇國の明日を荷負つて行くべき子供なのだから私達はきつとく、安全に守つてやらねばならぬと痛感する」

一日の保育計畫の立て方

菊池ふじの

自分の託されてゐる幼児達に、今日の一日を、或は明日の一日をどういふ風に過させやうかといふ問題は、斯の道に長く携はつてゐる者にも、況して新しく斯の道に這入つて來た保育者なら尙更のこと、考へる大問題である。

聊かの弛緩なく間隙なく、樂しき緊張の中に下降時の來たのも識らずに、「もうお歸り？」と驚き、「あゝ面白かつたなあ、又明日續きしやうね」と歡聲を洩らして歸つてゆく幼児達を見送つた時の保母の喜びも亦

と書いてありましたが、本當にそうだと思ふ。

お國の大切な子供である。これからの日本を背負つて立つ子供達、將來ある子供達、やがては、大東亞の指導者となるべき子供達である。私達は幼児の防空訓練について、眞劍に考へ、實行して子供達を守りぬきたいと思ふ。

たとへやうがないのである。保母の念願するところは只偏に、今日の一日を、幼児をして教育的に如何に樂しませ充實させてやるかに盡きる。

扱て高等女學校の卒業者或は高學年の人達は、この幼児達を喜ばせ度い樂しませ度いといふ幼児に對しての愛情に於ては、實に申分のない純情の持主であつて、幼児の爲にすることに於ては苦勞も心勞も厭ふところでなく、むしろその親切心の横溢をこそ適當に指導する必要があると考へられる